

# 遂に「Bリーグ」が始まった

日本における二十歳以下の若年層のスポーツ人口は一位がサッカー、二位は野球を抜いてバスケットボールになった。世界で最も競技人口が多いのがバスケットボールなのは意外に知られていない。そして、遂に日本でもプロバスケットボールリーグ「Bリーグ」が開幕した。小学校から高校まで八年間のバスケットボール経験から、リーダーについて思い出したこと話をしたい。

## 小

学校五年生のとき、近所の友達から

「バスケット部に入らないか」と誘われ、あまり考えずに入部した。顧問の鎌田先生は「練習は真剣に、チームワークを大切にする」という方針のもと、部活中はとても厳しかったが、上級生も下級生もほとんど辞めなかつた。時折、練習や試合が終わつた後に、アイスやお菓子をご馳走してくれるのを楽しみにもしていた。鎌田先生の人柄についていつた。

むつ中学校に進学するも、バスケ部が無かつたので、バスケ部を創ることにした。そこに当時の名門の拓殖大学で名ガードだった関コーチが就任した。一年生だけでの公式戦。初戦は女子の半袖のユニフォームを借りて試合に出た。ユニフォームを買う予算が無かつたのだ。中学校一年生で背も低い五人が女子のユニフォームを着て、センターcourtに立つたとき、会場は大爆笑だつた。あの光景は、今思い出しても赤面する。そして、結果は一二〇対一二で大敗北。でも関コーチからは「三年生になつたら、経験や実力の差で県チャンピオンにな

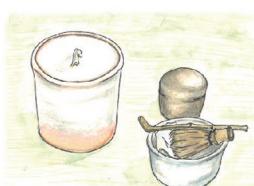
れる」と励まされた。

できたばかりのバスケ部では、体育館も使はず、校舎裏の片隅に屋外コートを作つた。練習は土の地面の小石を拾うところから始まつた。それでも、ボールは常にイレギュラーバウンドした。自然とボールハンドリングが正確になり、さらにドリブルに頼り過ぎず、バス中心の攻撃を磨いた。本当に土埃まみれの練習だつた。

関コーチのリーダーシップの下、これを乗り越えれば勝てる信じて、厳しい練習に明け暮れた。体力、走力、チームワークは青森県一と言えるぐらいになつた。そして、三年生では、優勝チームに肉薄するほどになり、青森県大会三位の好成績を収めた。劣悪な環境は実力をつけるのにもつてこいなのだと改めて感じる。

中 学校のメンバーのほとんどが同じ高校に進学した。コーチは二十六歳、日大出身の丸コーチだつた。明るさもなく、常にイライラしていたので、メンバーとのコミュニケーションはギクシャクしていた。

言葉にも温かみが無かつたと思う。高校に



(株)キャリアコンサルティング 代表取締役社長 室館 勲

1971年青森県に生まれる。2003年株式会社キャリアコンサルティングを設立。2007年ブータン王国王立マネジメント大学にて講演。就活支援「プレミアムスタイル」は2016年4月入社の内定率99.22%を達成。著書に「夢を見て夢を叶えて夢になる」(致知出版社)、「まずは上司を勝たせなさい」(講談社)、「仕事で結果を出す人の頭の中」(しののめ出版)がある。

